

奈良市学校園安全対策委員会からの提言について

1. 提言

6月22日(木)15:00より、奈良市学校園安全対策委員会の瀬渡委員長から中尾教育長に対し、教育長室において提言が手渡されました。

その場において、教育長は、「この提言をもとに、これからも子どもの安全確保について効果的・継続的に取り組んでいきたいと思えます。」といい、受け取られました。

2. 効果的・継続的に実施する子どもの安全確保における3つのキーワード
(その他の内容については、別紙資料参照)

(1) 意識啓発

関係者が当事者意識をもつことにより、日頃より危機意識を高め、さらに実践的能力を向上させる。

(2) 地域ぐるみの取組

地域ぐるみの自主的な取組により、犯罪企図者を寄せつけない犯罪に強い安全な地域(学校を含む)をつくる。

(3) 環境整備

「入りやすい」・「見えにくい」場所を減らし、犯罪の発生を防ぐことにより、奈良市域の犯罪率を継続的に減少させ体感治安を向上させる。

担当：教育総務部少年指導センター
電話：0742-34-4863

奈良市学校園安全対策委員会提言

～ 効果的・継続的に取り組む子どもの安全対策～

平成18年6月
奈良市学校園安全対策委員会

はじめに

平成16年11月17日に奈良市内で発生した女児誘拐殺害事件は、私たちに大きな悲しみをもたらすとともに、子どもの安全対策に大きな課題を投げかけた。

平成13年6月8日に起きた大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件の大惨事によって、「学校は地域で一番安全な場所である」と誰もが疑いもしなかった思いから大きく方向転換を求められていた。

「学校は安全でなければならない」という課題に対して、不審者侵入時の危機管理マニュアルの作成、さすまた等の取り扱い等を含めた防犯教室等が全国的に取り組まれていた。そうした状況下で、奈良市の事件が起きた。警察はもちろん、全国の保護者・学校関係者・地域が登下校時の安全確保に立ち上がった。しかし、従来「日本は安全な国である」という認識に長く浸ってきた我々にとって危機意識を高め、この課題を克服していくことは簡単ではなかった。

現在、奈良市内においても子どもの安全確保の取組が積極的に行われているが、様々な課題が発生して、その対応に関係者が頭を痛めている。これらは学校教育における喫緊の課題となっており、教職員が学校内外で奔走している現状がある。

そこで3月1日に10名の委員からなる第1回奈良市学校園安全対策委員会が開催され、教育長より「効果的・継続的に取り組む子どもの安全確保」のために、様々な課題について幅広い視点から議論し、提言としてまとめるように依頼された。

1 取組から見えてきた課題

学校園の課題

- (1) 子どもの安全確保に関する取組に、学校間や教職員間にも温度差がある。
- (2) 当事者意識を持ちにくく、全ての学校園の危機意識の高揚が求められている。
- (3) 加害者をつくらない教育の実践が求められている。
- (4) 通学路に関わる安全確保のみならず、学校侵入に関しても引き続き取り組む必要がある。

保護者の課題

- (1) 保護者には、自分の子どもは自分で守るという意識に温度差がある。
- (2) 保護者には、自分の子どもを引率したい気持ちをもっている人もいるが、勤務等の問題から、それができずに悩んでいる人もいる。
- (3) 事案発生時に速やかに警察や学校に通報する意識は高まっているが、情報の速報性・共有性という面では、まだまだ弱さがある。

地域の課題

- (1) 学校安全対策推進委員会（仮称）設置の取組が、まだ始められていない地域がある。取組の準備をすすめた団体でも、運営活動の主体をめぐって思うように活動を進めることができない場合がある。
- (2) 通学路における子どもの安全確保について、教職員や保護者の取組が弱いとき、「なぜ我々だけが継続的にやらねばならないのか」という意見がある。
- (3) よりよい活動方法についての知識や情報が蓄積されておらず、効果的な活動につながりにくい場合がある。
- (4) 地域における自主的な防犯活動では、一部の住民に担い手が偏ってしまう場合があり、その住民の負担感・疲労感が高まると活動の継続性が弱くなる場合がある。
- (5) 不審者情報の速報性・共有性にまだまだ弱さがある。

環境整備の課題

- (1) 「割れ窓理論」¹⁾における「入りやすく」「見えにくい」場所が、地域において改善されず、見通しの確保や防犯設備の整備等が十分でない場合がある。

2 子どもの安全対策についての基本的な考え方

子どもの安全対策は、短期間の取組で効果をあげることは難しい。効果をあげるためには継続的に実施する必要がある。継続的に実施するためには、関わっている人々の負担感を減らしたり、意識を変えていく取組が必要となる。そのためには、以下の3つのキーワードが重要であると考えます。

(1) 意識啓発

関係者が当事者意識をもつことにより、日頃より危機意識を高め、さらに実践的能力を向上させる。

(2) 地域ぐるみの取組

地域ぐるみの自主的な取組により、犯罪企図者²⁾を寄せつけない犯罪に強い安全な地域（学校を含む）をつくる。

(3) 環境整備

「入りやすい」・「見えにくい」場所を減らし、犯罪の発生を防ぐことにより、奈良市域の犯罪率を継続的に減少させ体感治安³⁾を向上させる。

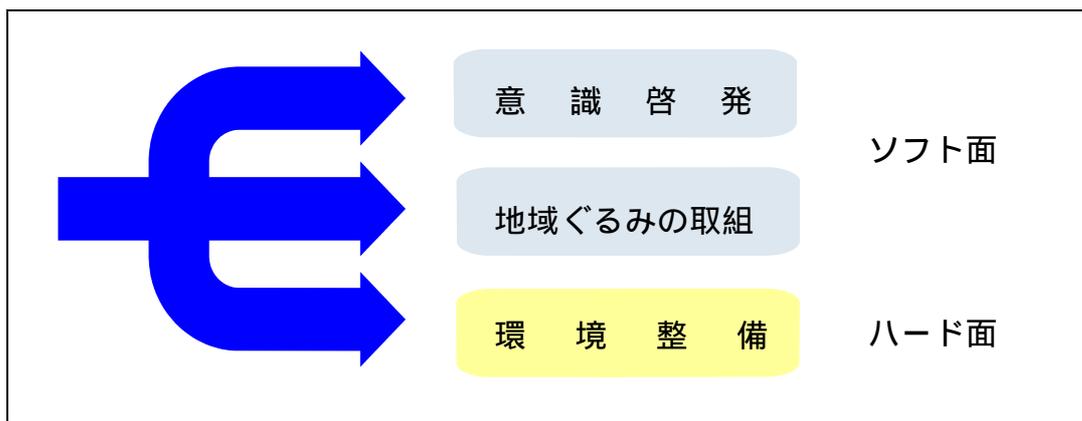


図1 効果的・継続的に実施する子どもの安全確保における3つのキーワード

3 基本方針を推進するための方策及び具体例

(1) 危機意識の高揚と情報の速報性・共有性をはかる。

危機の多い社会に変化してきていることを認識し、危機に迅速に対応するために情報収集と意志決定に要する時間の短縮を図る。

【具体例】

- 発達段階に応じた安全教育プログラムの作成・実践
- 学校危機を想定したマニュアルの作成及びそれをもとにした研修
- 「なら子どもサポートネット」の取組を強化したネットワークづくり
- 学校安全対策推進委員会（仮称）の設置
- 警察や民間を利用した防犯教室・防犯訓練等の実施

(2) 地域で力を合わせ、地域の子どもは地域で守る。

地域における様々な活動団体が防犯の視点から活動を見直すことで、日常的な活動を防犯活動と結びつけ、地域が一体となって犯罪に強い地域づくりを目指す。

【具体例】

- 学校安全対策推進委員会（仮称）の設置
- 「子ども安全の家」と連携した授業や訓練の実施
- スクールガードの増員

(3) 「地域に開かれた学校づくり」を推進し、継続的に取り組める工夫を行う。

学校は地域コミュニティの一員であることを意識して、地域の防災活動も含めた様々な活動と組み合わせ、地域コミュニティの再生につながる取組を行う。

【具体例】

- 学校安全管理体制チェックリスト（評価基準）を作成・点検・評価

(4) 市民安全室（危機管理課・地域安全課）と連携した取組を推進する。

地域の犯罪特性や、コミュニティの状況、街づくりにおける課題などを把握し、子どもの安全確保だけでなく総合的な取組について検討する。

【具体例】

効果的な地域安全マップづくり及び環境の改善
「安全で安心な夢のある街づくり」をめざす取組の推進

参考資料

語句解説

1) 割れ窓理論

アメリカのウィルソンとケリングという2人の博士が1982年に発表。軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする環境犯罪学上の理論。建物の窓が壊されているのを放置すれば、その地域は、監視されていない、あるいは関心のない地域と捉えられ、他の窓もまもなく壊されるだろうという考え方から、この名前がある。

ニューヨークのジュリアーニ市長が、治安対策にこの理論を取り入れたことで有名。

2) 犯罪企図者

犯罪を行おうとする者

3) 体感治安

統計の数字などによるのではなく、社会環境の変化、社会における規範意識の低下、経済情勢等の様々な事情によって、人が肌で感じる治安の良し悪し

奈良市学校園安全対策委員会名簿

(学識経験者)	瀬渡章子	奈良女子大学 生活環境学部 教授
(学識経験者)	樋村恭一	元(財)都市防犯研究センター主任研究員
(地 域)	馬場 徹	奈良市自治連合会会長
(地 域)	立石良寛	奈良市少年指導協議会会長
(警 察)	戸尾和嗣	奈良警察署生活安全課課長
(警 察)	吉田修司	奈良西警察署生活安全課課長
(学 校)	福島定男	奈良市立飛鳥小学校校長
(学 校)	谷 秀春	奈良市立三笠中学校校長
(P T A)	上田和男	奈良市P T A連合会会長
(教育委員会)	中室雄俊	奈良市教育委員会教育総務部長

(平成18年3月31日現在)